

リーグ戦 競技要項 第4項の詳解

秋季リーグ戦、競技要項第4項については、下表のとおり行う。

試合成立	5回完了
正式試合	7回
勝ち点制	4回コールド（5点）5回コールド（4点）勝（3点）引分（1点）負（0点）
順位決定	勝ち数 > 勝ち点 > 少失点 > 得失点差 > 多得点 > 直接対決で勝利
投球回数制限	あり（捕手も含む）
時間制	あり（2時間制）
コールド	あり（4回：10点差、5回以降：7点差）
延長戦	なし
タイブレイク	あり（1アウト満塁：最大3イニング）
抽選決着	なし（引き分けで処理）
審判	全審：各チームから2名ずつ派遣
禁止事項	一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム ※全て原則

上表の詳解については下記のとおり。

（試合成立ならびに正式試合）

試合は7回まで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

但し、以下の場合例外とする。

- 1 試合成立は5回までとし、5回までは2時間を超えても試合を行います。
- 2 後攻チームが攻撃中、後攻チームがリードしている際に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

（コールドゲーム）

4回10点差 または 5回以降7点差。

(タイブレイク)

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ **タイブレイク戦は正式試合が成立後、同点の場合は必ず適用**します。(2時間超えていても必ず実施)
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。
7回終了後、同点の場合は、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中に **2時間を経過しても、途中で打ち切りません。**
- ・ 最大3イニングのタイブレイク戦を戦い、**それでも同点の場合は勝敗抽選等を行わず、両チーム引き分けて処理すること（両チームに加点1）**

【サスペンデットゲーム（特別継続試合）について】

降雨などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

(適用するケース)

- ・ 正式試合（5回完了）になる前に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

(特別継続試合のルール)

中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない。**

監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。

投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）

残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。

特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注1) 特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2) **試合成立後（5回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません。**

注3) 試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、引き分けて処理するものとする。（その時点の加点やリードなどは一切反映されない）

注4) 試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）